

最初に、海に関するお話をしたと思います。私は、夏休みに海へ行きました。波の音を聞きながら泳いでいるときは、とても気持ちよかったです。少し日焼けをしてしまいました。よい思い出ができました。

ところで、最近海に行くという人が減っているそうでもあります。それはなぜでしょうか。少し前のことになりましたが、海に行くというのは、夏休みの過ごし方として代表的なものであります。毎年、海にはたくさんの人たちが訪れていたのです。

しかし、同時に、いろいろな問題も発生してました。

その一つが道路の渋滞であります。夏になりますと、海に向かう人たちの車でいっぱいになるというわけがあります。また、日焼けを嫌う人が増えてきたということもあります。昔から適度な日光浴は健康によいというふうに言われていました。しかし、行き過ぎた日焼けは肌などに悪い影響が出ます。加えて、病気になるリスクが高まるということも分かってきました。その結果として、海に行くことを避ける人が多くなつたというわけがあります。

さらには、地球環境の変化ということもかなり影響しているようでもあります。私たち人間がごみを捨てることによって、海はどんどん汚れ

ていきました。また、温暖化が進みまして、最近の夏は暑過ぎるほどであります。ですので、海に限らず、外で活動することが危険になってきたのであります。

このように、様々な要因が重なりまして、海に行く人が減少したのではないかと思います。ある調査によりますと、海が好きだと思ってる人の割合も減っているそうでもあります。

一方で、海は大切だと思ってる人の割合は高い傾向にあります。実際に、地域の人たちや様々な団体などは、海を守るための活動をしています。例えば海や砂浜をきれいにするための取組に力を入れていきます。それから、多くの人たちに来てもらえるように、ビーチバレーなどのスポーツができるようにしたところもあります。夏だけではなくて、一年を通して海に親しんでもらおうという取組もあります。あるところでは、海を見ながら食事をしたり、キャンプをしたりすることができるとして、人気を集めているのであります。

日本は海に囲まれた国でありまして、様々な恩恵を受けてきました。海といえば夏というイメージがあるかもしれませんが、ほかの季節であっても十分楽しむことができます。ですから、私もまた海に行きたいと思っているのであります。

次のお話をします。

先日のご話ですが、私は買物の帰りにタクシーを利用しました。家の前まで送り届けられてもらいまして、とても便利でありました。ただ、タクシー乗り場には長い行列ができていて、随分と待たされることになりました。しかも、もう一つ気になることがありました。それは、運転手さんがかなり高齢の方のように見受けられたということです。もちろん、何も問題はありませんでしたが、この業界でも高齢化が進んでいるようでもあります。

最近、高齢者の交通事故が増加しています。そのため、政府は一定の高齢者に対して免許の自主返納を勧めています。その一方で、タクシー運転手が不足していることから、それまでの上限年齢を引き上げるといふことになりました。何か矛盾しているように感じるのは私一人ではないと思います。

私たちは、誰でも年を取りますと体力や判断力が低下してきます。そのような状態で運転をしますと、事故が起こりやすくなるわけであります。

そこで、幾つかの地域では、これらの問題を解消するために、ある取組が始まりました。どういうものかといいますと、家用車を使ってタクシーと同じようなサービスを提供するとい

うものであります。

これには多くのメリットがあると言われています。まず、タクシーが不足している地域や時間帯が減るということでもあります。また、トラックの利用も認められているようでもありますので、大きな荷物を運んでもらうこともできます。それから、自分の車が使えるというのも大きなメリットになっているようでもあります。

ただ、この取組については課題もあります。その一つが運転免許の問題であります。タクシーの場合は、人を運んで料金をもらうための免許を持っていなければ運転できません。しかし、今回の取組においては、普通免許を持つていれば可能なのであります。もちろん、安全対策を行うことが条件とされていますが、それでも不安が残りますから、タクシードライバーと同じような研修を受けることが必要であります。この取組は、国によつては普通に定着しているところもあります。しかし、日本では初めての取組であります。いずれにしても、これはタクシーだけの問題ではありません。電車やバスなどを含めた公共交通の在り方を地域全体で考えていく必要があると思います。

私は、これが全国に広がっていくかどうかというところに注目しているのであります。

最後に、夏の暑さを避ける工夫ということに

ついてお話をしたいと思います。

毎日のように暑い日が続いています。このような日に欠かせないのがエアコンであります。適切な使い方をしますと、熱中症の予防に効果があると言われています。しかし、冷房が効いた場所に長時間いますと、外の空気との温度差が大きいためにかえつて体調が悪くなりますので、注意が必要であります。

そういうことは一応脇に置いておくことにしまして、今日は、日本ならではの涼しさの感じ方について幾つか紹介したいと思います。

日本には、昔から涼しさを感じる知恵がたくさんありました。

まずは、目で感じるものについてであります。それは、透明な水槽に魚とか水草を入れて眺めるといふものであります。水の中の生き物は、見ていて涼しさを感じることができます。また、家の中で手軽に扱うことができますので、とても人気であります。

次に、耳で感じるものについてであります。その一つに風鈴があります。風が通る場所に風鈴をつるしておけば、風が来たことを耳で感じることができます。しかも、その音で涼しさを感ずるといふ工夫もされています。

それから、肌で感じるものとして、打ち水があります。地面に水をまきますと、水が

蒸発するときに地表の熱が奪われます。そのために、温度が下がって涼しく感じるといふものがあります。これは、もともと訪問者を出迎えるときに行っていたようでもあります。玄関先などに水をまくことによりまして、出迎えの準備ができたということを知らせたのであります。

さらに、鼻で感じるものとして扇扇子があります。鼻で感じるといふと意外に思われるかもしれませんが、鼻で感じるといふと意外に思われるかもしれません。もちろん、あおいで風を感じることでもできますが、扇子の材料には香りのあるものがよく使われていまして、この香りが風と一緒に暑さを和らげてくれるのであります。

また、夏によく降るにわか雨も暑さを和らげてくれます。これは、天然の打ち水とも言われています。雨の後は涼しくなりますし、その匂いもこの季節ならではの香りです。

最後に、舌で感じるものとしては、かき氷があります。かき氷を口に含みますと、冷たくて暑さが吹き飛びます。これも古くからありましたが、昔は高級なものだったということでもあります。

九月に入っても暑さの厳しい日が続くと思われまます。無理をしないで、それぞれのやり方で暑さを乗り切ってもらいたいと思います。(了)